

事例研究報告

**特別支援学校中学部生徒の
問題行動の改善と遊びの要
求行動を教える支援**

生徒の実態

【対象児】

- ・ 知的障がいのある中学部3年男子生徒
- ・ 発語なし。
- ・ 聞き慣れた言葉（「待って」「立って」など）は理解できるものもある。
- ・ 支援者の指示を待つ傾向がある。
- ・ 自分が苦手な活動（行事等）があり、次のようなことがきっかけとなり、口の中に手を入れたり、口腔内を掻きむしる。
 - ・ 不快な音刺激
 - ・ 見通しのもてないとき（教員の口頭での説明）
 - ・ 自分をみてほしい
 - ・ はじめての学習
 - ・ 自分以外の生徒のところに教員が行く

教員の考え

「主体的な動きを増やしたい」

「口の中に手を入れる行動を減らしたい」



アドバイザーからの助言

感覚刺激を得られる時間
を作りましょう。

自分から遊びを要求する
ことを教える

ことから始めましょう。



指導目標の見直し

アドバイザーの先生から助言を受け、感覚刺激を得る時間を提供し、遊びの要求カードを選択し、教員に手渡すことを指導目標として考えました。

【長期目標】

- ・ カードを使用して、遊びの場面、対処困難場面で要求ができる。

指導目標

- ・ 要求カードを使って、教員に遊びを要求する。

指導1: 感覚刺激を得られる時間の提供

見通しが持ちにくい場面（行事や集団活動における教員の口頭での説明場面等）で、クリアファイルやラミネートした紙を振る活動を行い、感覚刺激を得る時間を提供する。

指導2:遊びを要求する

【指導を行う場面】 休み時間

【教材】「あそんでください」カード, あそびの選択ボード

【指導目標】

椅子に座った状態で, 遊びの選択ボードの中から, 「あそんでください」カードを選び, カードを近くにいる教員に渡すことができる。

【ステップ1の手続き】

- ①遊びエリアに遊びの選択ボードを用意する。
- ②一人の教員が「あそんでください」カードを選択するよう身体的ガイダンス等を行い, もう一人の教員に渡すことを伝える。
- ③カードをもらった教員は, 本人が好きな歌を歌う。

指導2:遊びを要求する

【ステップ2の手続き】

遊びの選択肢の中に好きなメロディ本あり

【ステップ1】の②をなくす。

【ステップ3の手続き】

遊びの選択肢の中に好きなメロディ本なし

【ステップ2】と同様。

遊びの選択ボードの中からカードを選び、離れた位置にいる教員のところまでカードを持って行くことができる。

指導2:遊びを要求する

【ステップ4の手続き】

- ①遊びエリアに遊びの選択ボードを用意する。
- ②本人がカードを選んだら、もう一人の教員のところまで歩いて渡しに行くことを身体的ガイダンスで伝える。
- ③カードをもらった教員は、カードに応じた遊びを本人に提供する。

*ステップ4の指導期間は1日とする。

【ステップ5の手続き】

【ステップ4】の②をなくす。

記録方法と記録

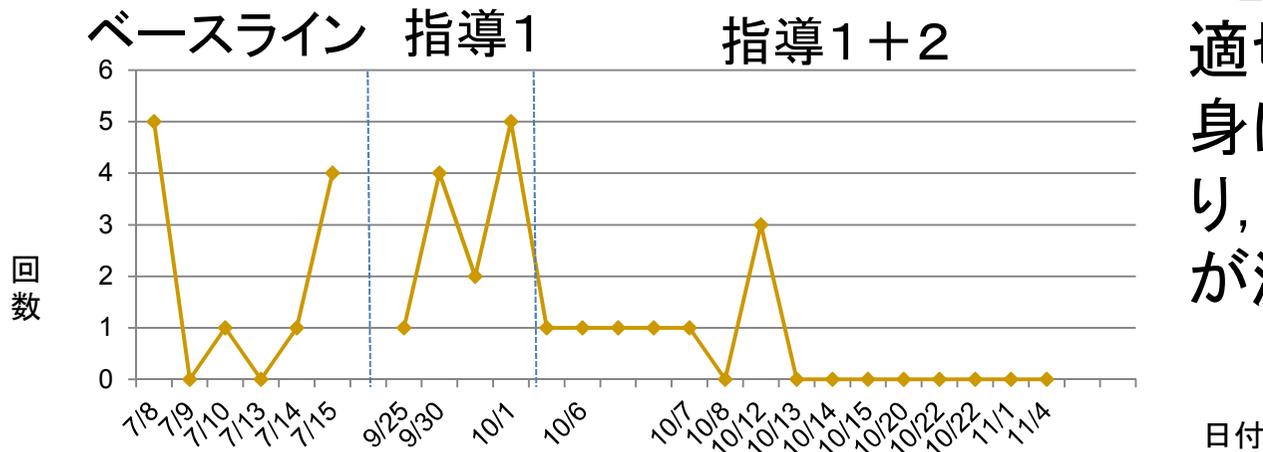
【ステップ 1～3】

要求回数を記録する。

【ステップ 4 および 5】

自発的に要求できたら 2 点,
プロンプトありで要求できたら 1 点,
要求しなかったら 0 点
として記録をする。

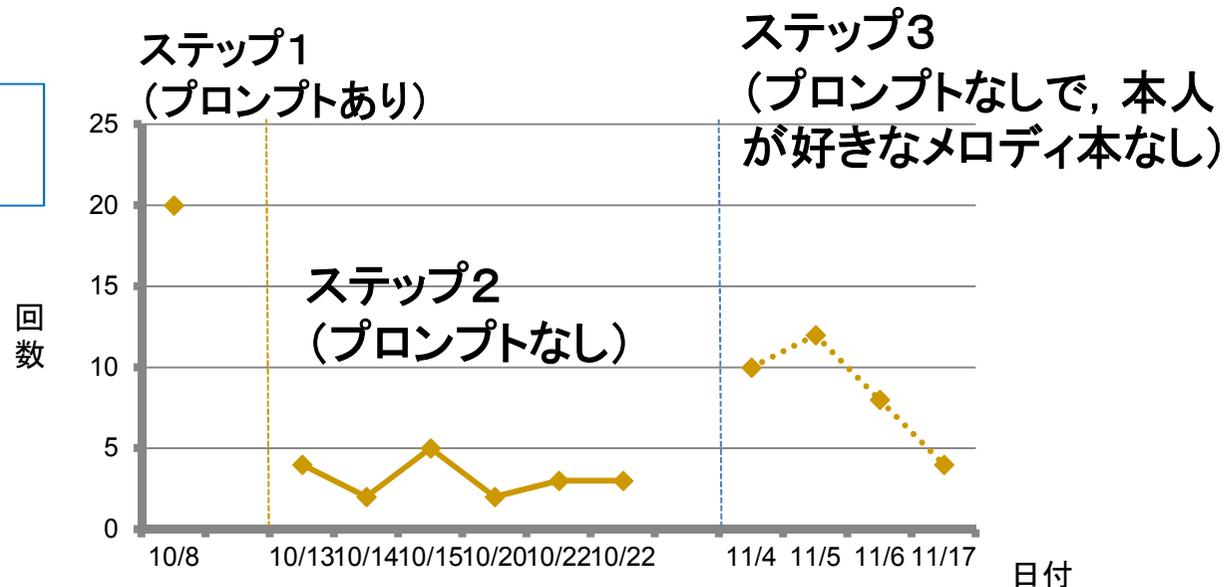
指導1の成果



・感覚刺激を得て、適切な要求行動を身につけることにより、本人の行動問題が減りました。

結果1 Aさんの行動問題の回数

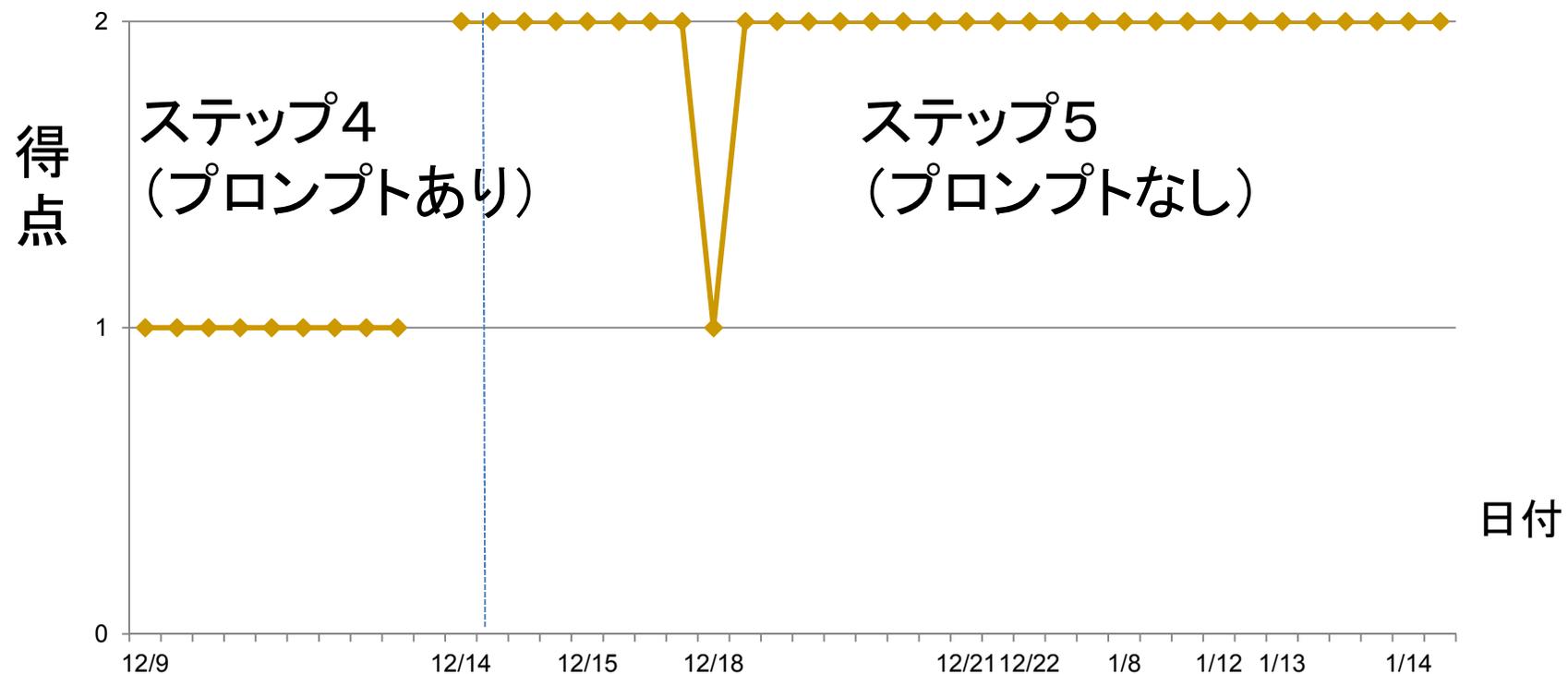
指導2の成果



結果2 遊びカードを使用しての要求の回数

指導2の成果

遊びのカードを使用して教員のところまで持って行く要求が定着し、水分の要求も教員の側まで来て伝えられるようになり、般化する場面も見られました。



結果3： 遊びのカードを自発的に要求した得点

ここが成功のポイント



○感覚刺激を得て、適切な要求行動を身につけ、要求が伝わったり、教員に褒められたりする経験をするにより、本人の問題行動が減り、本人の生活の安定に繋がった。

○遊びの指導場面以外でも、要求ができるようになり、般化につながった。